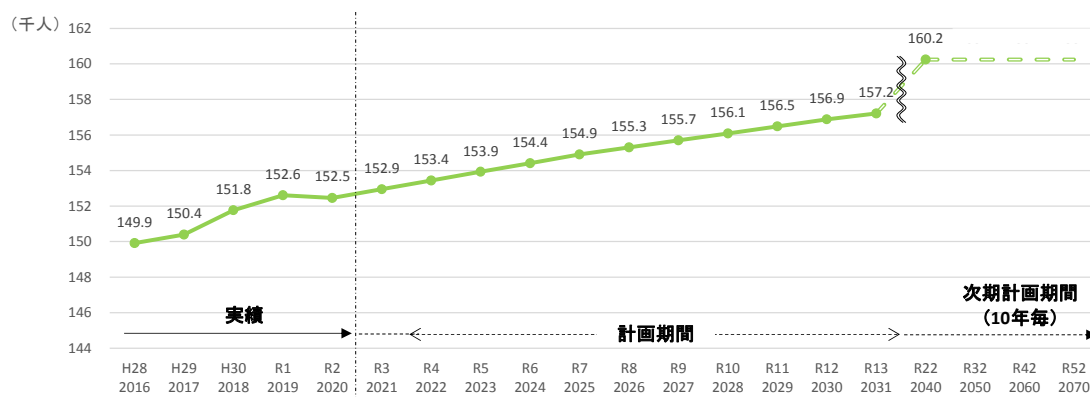


第3章 将来の事業環境

1 給水人口の予測

刈谷市の人口推計では、今後も人口増加が続く見通しとなっており、このことに伴い給水人口も増加が続く見込みです。

給水人口の見通し



※令和2年度までは実績値、令和3年度以降は推計値。

※令和23年度以降は人口推計値未定

給水人口の予測にあたっては、以下を根拠としています。

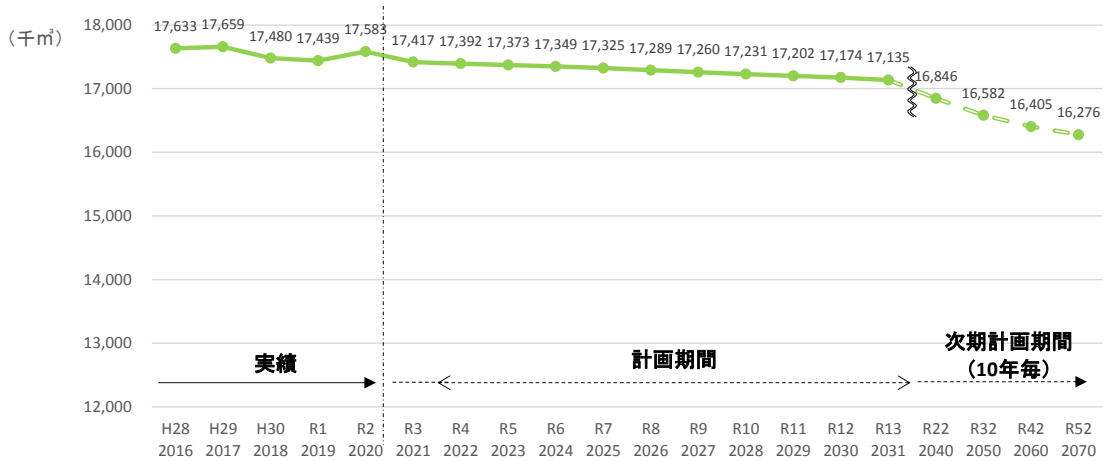
かりやまちづくり白書 人口中位推計値※×水道普及率 を採用

2 水需要の予測

(1) 有収水量（全体）の予測

給水人口は増加が続く見込みですが、節水機器の普及や東日本大震災後の節水意識の高まり、工場などの大口使用者を中心とした地下水利用転換等の影響を受け、全体有収水量は緩やかに減少する見込みです。

水需要の予測 有収水量



※令和2年度までは実績値、令和3年度以降は推計値。

なお、水需要の予測にあたっては、以下を根拠としています。

口径13、20mm・・・1人1日平均使用水量※×給水人口の見込みを採用

※直近10年間の実績（令和2年度を除く）を基に将来需要を推計

口径30、150mm・・・直近3年で使用件数が0であるため0m³を採用

その他・・・口径ごとに直近10年間の実績※を基に将来需要を推計

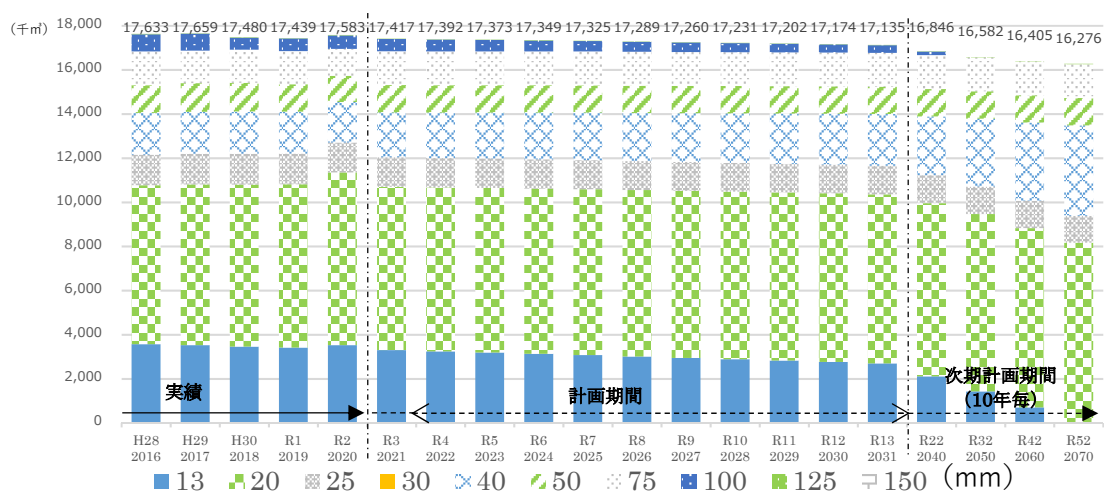
※令和2年度実績はコロナ禍による影響が大きいため除外

(2) 有収水量（口径別）の予測

一般家庭利用の多い口径 25mm以下の有収水量は、節水型機器の普及などによる1人当たりの水道使用量の減少を受け、減少傾向が続くものと予測しています。

また、口径 50mm以上の有収水量についても、大口使用者の地下水利用転換等の影響により、減少傾向が続くものと予測しています。

水需要の予測 口径別内訳

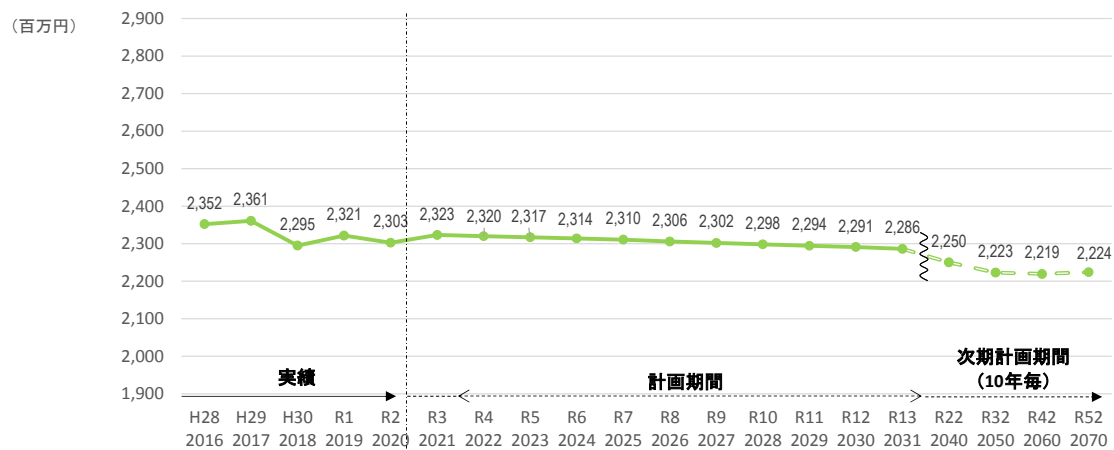


※令和2年度までは実績値、令和3年度以降は推計値。

3 料金収入（税抜き）の見通し

水需要の減少に伴い、料金収入も減少する見通しで、現状よりも厳しい事業環境が予想されます。

料金収入の見通し



※令和2年度までは実績値、令和3年度以降は推計値。

料金収入の見通しにあたっては、以下を根拠としています。

有収水量×供給単価 を採用。

4 組織の見通し

本市水道事業では、民間委託の推進などにより、経営の効率化を図り、定員の適正化に努めてきました。

今後、老朽化が進む管路や施設の更新など業務の増加が予想されることから、現行の職員数を維持するとともに、さらなる事業運営の効率化に努めます。また、技術及び資格を保有した職員が長期的に在籍できる人事制度や増員について、継続的に人事部局と調整することとします。

なお、職員数のみでなく、適正な年齢構成や能力を確保することが重要であるため、技術継承が行える人員配置に努めるとともに、業務の見える化や共有、研修の充実などにより組織力の強化を図ります。